

(註)

一 本節は第二章は第二段作戦期間、即ち一九四二年四月頃から一九四三年二月上旬までを包含するのであるが、南西方面に於ては、右時機以後即ち第三段作戦に入つても、一九四四年四月頃までは、第二段作戦と同様の状態が持続した。しかして、右の期間に於ける南西方面の作戦は、これを殊更に期間的好分けることなく、一括し整理するを得策と認められるので、本項は右全期間即ち一九四二年四月頃から一九四四年四月までに於ける南西方面作戦を記述することとした。

二 本期間に於ける南西方面作戦は、これを概説的に謂へば、南方地域資源の戦力化時代及び南西要域防衛の作戦準備時代であつた。

前者を明にすることは、戦争全般の推移を判断する上に於て、極めて緊要であるが、それには南方資源開發情況ならびに、それが内地還送情況を明にする要がある。しかるに日本海軍に於てはもともと右の如き統計的資料に乏しかつたので、現在に於ては右資料を整理し得る見込は遺憾ながら殆んどない。

後者の防衛作戰準備時代に就いては、その大部が日本陸軍の所掌であり日本海軍としてはこれが輸送護衛を任じたに止まり、従つてこれまた正確なる資料に乏しい。

結局ここには右の期間に於ける海軍の活動に就いて極めて概念的なことを述べたにすぎない。

本項に整理するに當つては、僅々残存する断片的な作戰記録、戦歴等を

参照し、可能の範圍に於て、現存する關係者の意見を徴し作製した。従つて極めて不十分、不満足な點多々あることを保し難い。

第一、ジャバ攻略から第二段作戦發令までの概要

一九四二年三月上旬ジャバ本島の攻略を了した日本軍が、寸暇の休息もなく、引續きスマトシ北部、アングマン諸島、ビルマ及び西部ニューギニア方面に進攻或は截定作戦の歩を進めて行つたことは、前章に於て記述するところがあつた。しかしてその記憶を新にし、且つはまた其の後の第二段作戦への轉換の情況を明にする爲、重複をいとはずその概要を述べれば次の通りである。

一九四二年三月上旬の終り、ビルマ方面に於ては泰方面から陸路進撃した第十五軍はラングーンに突入し、ジャバ本島またわが軍門に降つた。